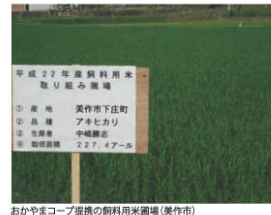


# おかやまコープ。くらしをつくる Vol.17

地域経済の発展のため、岡山県内産地と提携した産直商品の開発、普及を通じ、食料自給率の向上を目指し、食と農をつなぐ「産地産地」の活動を推進するおかやまコープ。その活動の一環が、飼料用米の活用推進だ。2010年度産、岡山県の飼料用米生産総量見込み1,668トンのうち、実に約6割にあたる717トン見込みの飼料用米を自らの産直商品の飼料に使用しているおかやまコープ。その意義と取り組みについて紹介する。



おかやまコープ提携の飼料用米農場(製作中)

**おかやまコープ産直商品への飼料用米配合 この秋から本格化!**

「おかやまコープ産直商品」  
「コープ産直たまご」飼料に配合!  
飼料用米活用による  
食料自給率向上への  
取り組み

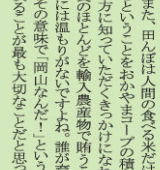
## 飼料用米普及と食料自給率向上の意義とは?

中国四国農政局 生産経営流通部 畜産課課長 浅沼達也氏

岡山大学大学院 自然科学研究科 准教授/農学博士 岸田芳朗氏



「継続して県産品を食べたい」という意識が、食料自給率を上げるためには、畜産の餌の自給率を10%上げなければならない。そこで水田を利用したトウモロコシに代る米を家畜の餌として組み込みが考えられました。飼料用米は鶏や豚を育てるのに、水稲農家の方、畜産農家の方、そして地域の活性化につながるという意識で、非常に大きな役割を果たすのではないか、期待しています。



「岡山なんだ!」という思いが大切  
日本は加工型畜産国らしく、穀物のほとんどを世界中から、特にアメリカからの輸入に頼っています。そうした穀物を地域内で自給する方向性が示されたとは、地域農業を再生させる意味、非常に良いことで、農家にとってはうれしいこと。また、田んぼは人間の食米を育ててはならず、家畜の餌も作れるということをおかやまコープの積極的な活動を通して、多くの方々に知っていただくように思います。極端な話、食のほんごを輸入農産物で賄うことは可能なんです。そこには誇りがなくていいですね。誰が買ったかわからない。その意味で「岡山なんだ!」という思い、食卓に生産者の顔が映ることが最も大切なことと思っています。

「継続して県産品を食べたい」という意識が、食料自給率を上げるためには、畜産の餌の自給率を10%上げなければならない。そこで水田を利用したトウモロコシに代る米を家畜の餌として組み込みが考えられました。飼料用米は鶏や豚を育てるのに、水稲農家の方、畜産農家の方、そして地域の活性化につながるという意識で、非常に大きな役割を果たすのではないか、期待しています。

# 消費地産地 飼料用米で食料自給率向上

**こだわりの笑顔の食卓のために**  
高梁川上流地区、震害知られる赤高山山脈を前に仰ぐ山室養鶏場。一家で飼育から採卵、出荷までを行っている。地産地消の基盤だと、私は思う。安全なお肉、地元産の食料を多くの方に食べてほしい。その気持ちを忘れず毎日頑張っています。と、一家の主人も農場長の山室剛さん。鶏たちの顔を見て、産ませる環境は、鶏にとって最も産みやすい環境をつくっています。



コープ産直たまご生産農場 山室養鶏場を訪ねて

山室養鶏場は県内11農場の産直たまご提携農場のひとつ。鶏の健康に配慮し、自然光と風を取り入れた開放鶏舎や前期産卵を最長565日と定めた鶏の完年制、年6回のケルミを採る検査の実施など、こだわりの飼育が行われ、安全でおいしい卵を生産している。

**消費者の喜びが一番の励み**  
「コープ産直たまご」は、国内の孟宗竹から抽出された生きた生きた竹酢液を粉末にした竹酢60が配合されている。竹の成分によって、豚肉の持つ臭気が抑えられます。コープスタッフは成長に合わせて配合を調整されています。そして、肉の柔らかさを感じていただけると思います。

**コープおかやま豚生産農場 岡山JA畜産(株)美星農場を訪ねて**  
コープおかやま豚を肥育する岡山JA畜産株式会社美星農場は、澄んだ空気、美しい空から天文台が置かれ、『美』として全国的に知られる井原市美星町に位置する。緑豊かな山間の広大な敷地に広がる豚舎は、池田二郎猪場長と、6名のスタッフが業務に励む。種付け、出産、子豚の世話から出荷まで半年サイクル繰り返され、他にも糞を堆肥化して化するフラスコ管理。まさに目を回すほどの忙しさを誇る。その表情は明るく、充実感に満ちている。一人間性と言うか、動物好きの集まりなんです。と、池田猪場長。一最後は皆さの口に入る経済動物とは、元気に生まれ、育てくれば、それはもう、可愛ものなはず。皮膚呼吸が出来ない豚は、特に夏場に弱く、肥育には細心の注意が必要。豚舎からの換気中に下敷きとなり、圧死してしまふケースもあるという。そんな子豚を肥育を全面的に任されているのが最年少の小林春奈さん。どうすれば元気に育てくれるか色々試行錯誤の毎日ですが、うまく行かないことも多々あり。それでも子豚を抱き上げると、優しく屈して笑顔で「おはあはあ」と豚が可愛く。授乳期を終え豚は、離乳舎から育成舎と移し、ここで大切に育てられる。餌と水は、おかやまコープ指定のケルミ配合飼料「コープスタ」。



「味には自信があります」と山室夫妻



美星農場でのおかやまコープ組合員地交流会

**愛情を込め、手間を惜しまず**  
また、おかやまコープには、生産者と組合員が交流する地交流会を企画。これまでも、組合員が美星農場を訪ねている。池田猪場長は「私たちがとても貴重な機会。消費者の嬉しい、ただの、一番の励みです。しかし、安全なお肉、産直商品は、熱い」と、食卓と届けたい。

また、おかやまコープには、生産者と組合員が交流する地交流会を企画。これまでも、組合員が美星農場を訪ねている。池田猪場長は「私たちがとても貴重な機会。消費者の嬉しい、ただの、一番の励みです。しかし、安全なお肉、産直商品は、熱い」と、食卓と届けたい。

**飼料用米配合開始**  
おかやまコープでは、2010年4月より配合を行ってきたコープおかやま豚飼料の飼料用米配合を従来の4%から10%増量。また、コープ産直たまごについても視察飼料用米配合の飼料供給をより充実させる。11月以降より、飼料用米10%が配合される予定です。

「こだわりの商品」は、産直野菜・産直果物・産直水産物・産直加工品・産直肉・産直牛乳の中で「こだわりの商品」を厳選し、産直商品のブランドとして、商品の開発、管理に取り組みしています。

「こだわりの商品」は、産直野菜・産直果物・産直水産物・産直加工品・産直肉・産直牛乳の中で「こだわりの商品」を厳選し、産直商品のブランドとして、商品の開発、管理に取り組みしています。

「こだわりの商品」は、産直野菜・産直果物・産直水産物・産直加工品・産直肉・産直牛乳の中で「こだわりの商品」を厳選し、産直商品のブランドとして、商品の開発、管理に取り組みしています。

「味には自信があります」と山室夫妻

「味には自信があります」と山室夫妻

美星農場でのおかやまコープ組合員地交流会

美星農場でのおかやまコープ組合員地交流会

子豚を抱き上げる小林さん(右)と優しい目で見つめる池田猪場長